



病院長あいさつ

病院長 福田 康彦

広島県、広島県厚生連、廿日市市、大竹市、佐伯地区医師会のご支援で、JA 広島総合病院の地域救命救急センターは完成致しました。決して大きな建物ではありませんが、このセンターが担う任務、期待、意義は非常に大きなものがあります。

市民アンケートからみても、救命救急センターは廿日市市、大竹市約 15 万人の市民にとって優先順位がもっとも高い医療施設であり、先日の救急医療をテーマにした市民公開講座では 800 人以上の市民でさくらびあホールが満席になりました。また、半数近くの救急車が広島市内の医療施設に向かっている現状を改善し、佐伯区、西区の方々にもこれまで以上に利用して頂ければ、疲弊しつつある広島市の救急医療救済の大きな力になります。

しかし、当センターの意義がもっとも大きいのは、JA 広島総合病院に勤務する医療人にとって誇りと、生き甲斐が新たに加わったことにあります。急病や事故で不安の極にある患者さんの治療は、われわれの責務であると共にやり甲斐でもあり、それに力を与えてくれる当センターの開設は大きな喜びであります。ご尽力頂いた関係者諸氏に心から御礼申し上げます。



地域救命救急センター長あいさつ

地域救命救急センター長 中尾 正和

新救急棟が完成し既存の集中治療室を加え、全国で 4 番目の地域救急救命センターとしてスタートします。これまで当院は入院・手術が必要な患者さんを診る二次病院でした。実は急性心筋梗塞、脳卒中、頭部外傷、多発外傷などの“三次救急”の重症患者さんにも対応しており、ようやく名実ともに救命救急センターとなります。救急棟内に専用 CT を装備し、夜間休日にも入院が必要な患者さんを収容する専用ベッドが確保されます。

そこで、地域の皆さんへのご協力をお願いします。初診を診る医師は全病院をあげての体制のため、必ずしも診療科の専門医ではございません。救急処置のトレーニングを受けた医師が対応し、ご自宅での様子観察か入院かを決定します。広島市民病院救急診療部のように一次から三次の全ての救急患者さんを診る形式を期待されているかもしれませんが、マンパワーの関係から現時点では困難です。従来通り、軽症患者さんは地域の医療機関や休日夜間診療所で診ていただき、重症患者を重点的に診させていただきます。永続的な救急医療を維持するためにも御理解と御協力のほどよろしくお願い致します。

JA 広島総合病院地域救命救急センターの概要

工事の概要

1. 工事名称 J A広島総合病院 地域救命救急センター増築工事
2. 工期 着工 平成 22 年 8 月 11 日
竣工 平成 23 年 3 月 7 日 (工期 7 ヶ月)
3. 設計監理 全国農業協同組合連合会 広島県本部
4. 施工 株式会社竹中工務店
5. 総事業費 6 億円 (医療機器含む)

施設の概要

1. 構造 地上 3 階 (鉄骨造)
 2. 高さ 14.55 m
 3. 建築面積 428.30 m²
 4. 延床面積 940.35 m²
-
- 1 階 救急処置室 2 室、診察室 4 室、全身コンピュータ
断層写真撮影装置、X 線撮影装置
 - 2 階 高度治療室 8 床
 - 3 階 地域救急調整ホール、スタッフ待機室 12 室